
私達の英雄

HERO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私達の英雄

【Nコード】

N0503C

【作者名】

HERO

【あらすじ】

私立学校にかよう洋子が混沌と腐敗の雰囲気で満たされた教室の中で英雄を求めます。

英雄はどこに……（前書き）

この小説の中で「英雄」という言葉が数多く出てきますが、僕から
の願いとして「英雄」は「ヒーロー」と読んでください。それで
は「私達の英雄」をお楽しみ下さい。

英雄はどこに……

2007年夏……

人々は今日も必死で生きている。

外回り中のサラリーマンはセミの鳴き声に苛立ちながらも汗だくで歩を進めている。

OL達は会社での愚痴を交えながらのランチタイムを過ごしている。しかし私達はどうかろう……

この混沌と腐敗の雰囲気で満たされた密室の中で一体何を求めているのだろうか。

金？それとも女？それとも快樂？

私達が求めているのはそんなありきたりのものじゃない……。

私達が求めているのは……

英雄^{ヒロイ}だ。私達は私立K高校の生徒だ。

私達のクラスは高2B組。

ここで私達、高2B組の人間達を紹介しよう。B組の人間は大きく分けて3グループに分けられる。

まず一つは大学受験のために青春の

「せ」の字もないような高校生活を送っている奴ら。家に帰ればすぐ勉強。時間を見つけては単語帳とにらめっこ。

こいつら、はつきりいつて馬鹿。

2つめは私立に通ってるくせに就職の道に走っている奴ら。

こいつらはこいつらでたちが悪い。頭悪いくせに俺達が勝ち組と言わんばかりの顔で教室を闊歩している。最後の一つが私も所属している夢も希望もない無気力な奴らのグループ。

はつきりいつてこのグループが一番クズだと思う。

やることと言ったらゲーセンか煙草か酒か性交。

存在価値が何一つない

この世の中に英雄はいるのだろうか…。

偽善者ではなく私達を哀れに思い救いの手をさしのべてくれる英雄は。

きっと英雄なんてそういるものじゃないんだろう。
でもこのままでは私達は腐ってしまう。

そんな英雄の事を考えていたら私の名前が呼ばれた。

「二宮！」

数学の後藤の声だ。

「何です？」

ガンを飛ばしつつ言う。

「この問題の答えを言ってみろ！」

「答えですか……答えは佐藤君です。」

「真面目に答えろ！」

「私はいたって真面目ですよ。答えを聞くならガリ勉佐藤君に聞くのが一番ですから。」

「ふざけるな！お前は減点だ！」

「どーも毎度減点ありがとうございます。」

見渡せば堂々と塾の問題集をやっている奴や彼女とメールしてる奴
寝てる奴昼飯を食ってる奴…。

後藤の授業なんて誰も聞いちゃいない。

後藤は英雄にはなれない私はそう思った。

今日もまた中央線に揺られながら家に帰る。

となりには浅野 優衣がいる中学からのダチだ。

優衣は私と違って就職志望の人間だ。

でも優衣は他の就職志望の奴らとは違う

中学のころから優衣はいい奴だった。

でも最近は少し悪になった気がする。

「さつきからなんで黙ってたんの？」

優衣が聞く。

「別に学校つまんねえと思ってさ。」

「そんなの今始まったことじゃないじゃん（笑）」

「今日家くる？」

「なんで？今日？」「うん…。今日。」

「いいけど…」

そして私と優衣は一緒に駅でおりた。

駅からは徒歩10分こそこらじゃなの知れたマンションの5階に

「二宮」の表札がある。

「何か洋子ん家来たの久しぶりだわあ。」早速優衣は私の部屋の物色し始める。昔からの悪い癖だ。

「洋子って洋楽聴くんだ！。……あつこれアイツのアルバムじゃん！あゝ誰だっけえゝ。思い出せないゝ。」

「優衣。これ見て…」

「何これ…ミスチル？HERO…あ！これ知ってる！」私はだまつてHEROをかける。

優衣は目をつぶって聞いている。

私は精神統一をしている。息を吸って吐いていったいなんと深呼吸をしただろう。

HEROが全て流れ終わった…。

「いい曲だね！」

優衣が言う。

「私達ってヒーローが必要だと思わない？」

声が震えているのが分かる。

「えっ？何言ってるの？」

優衣は現状を良く理解出来ていない。

「うん。別に大した事じゃないんだけど。私達このまま行けば腐っていき気がするんだよ。何の面白みもない教室に40人も押し込められて…男は下ネタと、どうでもいい武勇伝しか言っていないし、女だってくだらない話しかしてないし、まして先公なんてあんなの死んだほうがいいし……。」

「とにかく私はあんなところでいつまでもあんな学校生活をするのはやなの！」

一気に言った……。

全てをぶちまけた私の目からは大粒の涙が溢れていた。

「何言ってるの？」

私は何も言えないただただ泣くだけ。

「私もう帰るね。」

優衣は何も言わずに足早に去って行ってしまった。

私は大の字になって寝転んだ。

「私何やってるんだろう。」

涙はまだおさまらない。

「居るんなら助けてよ……私達の英雄さん。」

英雄はどこに……（後書き）

この小説を書こうと思ったのは本当の英雄ってなんだろうって何とも素朴な疑問から生まれたものです。

皆さんは英雄はいると思いますか？

答えがもしこの小説の中で発見できたとしたら幸いです。

覚醒（前書き）

感想をお待ちしております！

覚醒

5時近くになって母が帰ってきた。

私は涙を素早く拭き平然とした様子でベットに転がった。

「洋子いるの？」

母が言う。

「いるから何？」

そっけなく言う。

「洋子、塾に行ってみない？母さんあなたには母さんみたいな思いはしてほしく無いのよ。今からでも間に合うわよ！いざとなったら浪人してもいいんだから。」

「大学行くつもりは無いから！私は高校卒業したらとつとといい男と結婚するからね！」

自分でも酷い事を言っていると分かっている。私だってあの高校に来るまでは大学に行くつもりでいた。

何もかもあの学校のせい。その時私の携帯がなった。誰だろうと思いと見ると優衣からの電話だった。

「もしもし…優衣だけど黒沢っているじゃん…うんそう不良の黒沢がゲーセンで麻薬買ってるのがサツにばれたらしいよ。」

私はただ呆然とするしかなかった。あの黒沢がヤクをやってた何て……。

恥ずかしい話だが私は黒沢に気があった。悪になろうとしてもなりきれしていない所が可愛かったからだ。

「じゃあ黒沢どうなっちゃうの？」

「確実に私達とはバイバイだね。これから面倒なことになるよー。」
怒りが込み上げてきた。私の頭の中で

「学校のせいだ。」

という言葉が駆け巡り始めた。

許せない許せない許せない許せない許せない許せない

次の日優衣と一緒に学校に行くとか校門の前に人集りが出来ている。

行くと報道陣であった。私達の周りに報道陣が集まる。

「今回麻薬を買っていた青年について何か知っていることはありますか？」

優衣は怖くなったのか私を置いて颯爽と逃げてしまった。

「あのヤロー！」

「あの、何か例の青年について知っていることは？」

私はなぜかこんな場面になったら英雄は何て言うんだろうと考えていた。考えぬいた末こう言った。

「彼がああなつてしまったのはこの学校のせいです。分かったらとつとと帰って下さい。」

そう言うとは私は報道陣をかきわけ優衣を追った。

「ゴメンね私怖くなっちゃって……それで……」

本当は殴ってやりたかった、でもなぜか出来ない、なぜだろう。

さっきのコメントの前の思考といい私は最近おかしい。

「いいよ別に。」

そう言うとは私は教室に入った。

教室ではすでにホームルームが始まっていた。担任の遠藤は今にも倒れそうな顔で教壇に立っている。

生徒達は皆興奮ぎみで話している。

「ぼくは最初からアイツはやってると睨んでたね。」

そんなでまかせを言っているのは、そこそこの頭のいい藤巻だ。

でもこんな状況でも問題集を解く佐藤には圧巻した。

遠藤がやつと重い口を開いた

「皆、もう知っていると思うが高2B組黒沢誠司はゲームセンターで密売人から麻薬を買っているところを警備員に見付かり110番され黒沢はもう2度とこの学校には来れなくなった。」この時ばかりは皆遠藤の話を聞いている。不良組のボス的存在である井上を

除いて。

井上はPSPにかじりついている。

「皆インタビューをされても断るように。」

私は憤りを感じた。

黒沢がヤクに出したのはこのクラスのせいだろ！

何で簡単なそんな事が分からないの？

心臓がバクバクしているのが自分でも分かるドクドクドクドクドクドクドクドクドクドクドクドク……

私は覚醒した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0503c/>

私達の英雄

2010年11月20日15時15分発行